

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 11 月 )

2008 年度 第 5 回

報告題名 地域環境教育としての遊びの捉え方に関する研究

～子どもの異年齢遊びを考慮して～

報告者 池田敦

日時 11月27日 15時から17時

(所属分野) 環境経済学研究室

場所 第八講義室

座長 澁谷

議事録担当者 小山田

出席者 米倉, 冬木, 川島, 工藤, 斉藤, 長谷部, 木谷, 大鎌, 石井, 渋谷, 菅井, 小山田, 張, 飯塚, 佐藤伸寿, スチン, ソ, 柳瀬, 神浦, 佐々木, 福田, 林

#### 報告要旨

近年、農業の近代化、衰退化に伴って地域環境に大きな変化が起こっており、地域の環境教育によって持続的な地域社会づくりが今必要とされている。その中で子どもの地域づくりへの参画という視点から、子どもが地域の環境や問題を主体的に学ぶことを重要視し、そのあり方の一つとして子どもの遊びに注目した。本報告では、子どもの遊びの中でも異年齢間の遊びがないことに問題意識をおき、環境教育における子どもの集団遊びにおける異年齢間の交流が必要であることを、大人たちに了解させることで、子どもの遊びにおける地域社会教育の新しい観点を提案することを目的としている。

調査として、子どもの遊びに関わる仕事をしている4人の方(市役所の公園整備担当者、小学校教諭、地域で子どもの遊び場を提供しているNPO法人の方、子どもの遊びの研究者)をパネリストに迎え、子どもの集団遊びにおける異年齢間の交流が必要であることを気づかせる目的の戦略的パネル討論と、意見の変化を見るためにその前後でパネリストへのインタビューを行なった。

今回の報告では、戦略的パネル討論のプロトコル分析の結果とパネリストへのインタビュー調査の結果を示す。

## 質疑・応答

**渋谷：**現在の子供たちの遊びには異年齢間の遊びが少ないということですが、それは証明されているのでしょうか。

**池田：**小学四年生の一クラスを対象にアンケートを行いました。そのアンケートの中で「兄弟以外で遊ぶ相手はいますか」という質問を行ったところ、「いる」と答えた子供は一人しかいませんでした。したがって、現状としては、異年齢間の遊びは少ないと考えられます。

**渋谷：**私の実感としては、異年齢間の遊びはあるように思うのですが。例えば私の子供の場合、上の子供の友だちが弟や妹を連れて遊びに来てみんなで家の中で遊ぶ、といったようなことがあります。それから、子供のスポーツクラブのようなところでも異年齢間の交流はあると思います。

**池田：**ここで言う異年齢間遊びというのは、スポーツクラブで行われるようなクラブ活動のことではありません。地域の子供たちが自主的に、子供たちだけの世界で行っているような遊びをここでは想定しています。

**渋谷：**そういう遊びも私の家の近くの公園ではよく見かけます。だから「異年齢間遊びがない」というのはやはり私の実感と違うのですが。池田さんの出したデータも一クラスだけを対象にしたものですし、あまりきちんと証明ができていないのではないのでしょうか。

**池田：**しかしそうした異年齢間遊びは昔に比べてやはり少なくなってきていると思います。

**工藤：**この報告の言いたいことは、「環境教育を利用して持続的な地域づくりをすることが重要である。その際に子供たちが集団で遊ぶことが重要である」ということだと思えますが、なぜ「集団で遊ぶことが重要」なのですか。

**池田：**それは遊びを通じて子供たちが地域のことを学べるからです。今回集団遊びに焦点を当てているのは、集団遊びに問題が多いからですが、集団遊びに限らず、遊びには地域の環境のことを学習することができるという効果があると思います。

**工藤：**ではなぜ遊びによって地域の環境のことを学べるのですか？

**池田：**遊びの中で地域の環境を意識していけるからです。

**工藤：**そういうことを実証的に言ってください。つまり、行為自体に没頭してフローの状態になるとなぜ持続的な地域づくりにつながるのか、ということを実証的に言えるようにしてください。

**池田：**子供のころは遊んでいても環境のことをよく考えないと思いますが、それでも地域がどのように変化していつているのかということ学ぶことにはなると思います。

**工藤：**あまり明快に答えられていないので、次回までに明確にしてください。

それから、今回の報告では、子供たちが自分たちだけで好き勝手に遊ぶのがいいことだと言っているように思えるのですが、環境教育では意図的に学ばせるということも必要だと思います。

**大鎌：**この報告の主旨はこういうことでしょうか。つまり、出発点は、地域の中で環境を守ることである。その地域の環境については、地域の人々が共通の認識を持っているが、それは世代を経て伝承されていくものである。そして、そのような地域に関する共通の認識を受け継いだ人々が地域環境を守っていく上での担い手になる。それでは子供たちにそのような地域に関する認識がどのように伝わっていくかということ、それは地域の中で自発的に遊び、地域のつながりを自然発生的に把握していくことによってである。と、こういうことでしょうか。

**池田**：大体そのようなことです。

**大鎌**：では、「地域の文化の継承主体としての子供の遊び」という課題設定をしていただくとわかりやすくなると思います。